

地域住民らでにぎわう

居場所ハウスで感謝祭

大船渡

今年6月に大船渡市末崎町に開所した「居場所ハウス」の感謝祭は24日、同所で催され、地域住民ら多くの来場者でにぎわった。

感謝祭は、同ハウスを運営する「居場所」創造プロジェクト(理事長・近藤均末崎地区公民館長)の会員らを主体に企画。後援した同地区公民館、サポーターセンターおたすけの関係者らがボランティアとして参加した。

好天のもと、近隣地域の子どもから高齢者まで多世代がハウスに集い、町内外からも来

場者が詰めかけた。会場には、オリジナルのコーヒー、甘酒やひつつみ汁、かまもちなどの郷土食、焼き鳥などを格安で販売する「おいしい食べ物コーナー」、フリーマーケット、地場産品を直売する「ふれあい販売コーナー」がオープンし、サケのちゃんちゃん焼きが来場者に無料提供された。



「出前カラオケコーナー」では、地元の方々らが自慢のノドを披露。ダーツやフラフープなどが楽しめる「遊び場コーナー」は、ちびっ子たちに大人気で、元気がっぱいの歓声が響いた。

ハウス内では、買い求めた郷土食を食べながらお茶つこの時間を楽しむお年寄りらの姿もみられ、思い思いに憩いのひとときを過ごしていた。

居場所ハウスは、宇宙航空分野にかかる製造などの大手として世界的に知られる、ハネウエルインターナショナル(本社・米国ニュージャージー州)の全面支援で整備されたもの。高台移転など震災後のコミュニティ再編が求められる中、各種イベントや世代を超えた交流の場として地元住民らに親しまれている。

近藤理事長は「居場所ハウスは、だれもが自由に立ち寄れる憩いと癒やしの空間であり、地域住民みんながオーナー。多くの方に利

用してもらい、それぞれの居場所にしてもらうため、今後もさまざまなイベントを企画し、施設のPRを図っていきたい」と話している。